

「市政報告とまちづくり懇談会」

市長回答要旨

6月3日（金） 市民会館

※会の中で紹介した意見、市長回答をまとめたものです。市長回答は一部要約しています。

※回答は、市政報告会実施日時点のものであり、現在の状況と異なる場合があります。

番号	1	意見	学校や保育施設などの老朽化が進んでいる。小中学校は25校で4年に1校建替えても100年かかります。計画的な建替えが必要です。引き続き子育てNO.1都市を目指して頑張ってください。	教育総務課、幼児教育・保育課
回答要旨	今小牧の持っている資産の中で、ハード面で一番大きなものは学校施設です。そのため、計画的に建て替えをしていかなければいけないですが、学校数がとても多いです。1校建てかえるに30億、40億円かかりますから、これは非常に大きな問題です。東部地域は、人口が増える時には、幾つも学校建てましたが、人口も減っていくということで、こういったことをどう整理していくか、将来的な課題でありますので、順番に人口の状況を見ながら建て替えをしていきます。 今、学校のみならず全体として、ファシリティマネジメントという言葉が使われますが、これが何かといいますと、財政的なことも考え、使えるものは長く使っていくということです。昔はコンクリートの建物は耐用年数50年と言われていましたが、老朽化してから手を入れると非常にお金がかかります。少しずつ計画的に修繕をすれば、今は耐用年数80年で計算できますので、できるだけ長く使えます。 ただ、そうは言っても、老朽化してきます。この市民会館も、水道管などが非常に老朽化していますので、こういったところに手を入れてく必要があると思います。 具体的に言いますと、小牧小学校の建て替えが終わり、小牧南小学校、そして、次は米野小学校を建て替えます。老朽化はもちろんですが、人口が多くてプレハブを使っているところを建て替えていきます。 老朽化の度合いは米野小学校と三ツ渕小学校で同じぐらいだったので、三ツ渕小学校も建て替えをしたいですが、米野小学校は、老朽化に加えて、プレハブなどで増設をしないと教室が足りないという状況でしたので、教育委員会とお話をして、小牧南小学校そして米野小学校という順番に決めさせていただきました。そういった総合的な判断で、順番に、建て替え等を進めていきたいと思っています。			

番号	2	意見	保護者への手紙で、マスクの着用について、登下校時は必要なしや外すよう指導するとなっていますが、暑くなったこの時期ほとんどの児童がマスク着用で登校している。外しても良いことをもっと指導してほしい。熱中症が心配です。	学校教育課
回答要旨	学校のマスクについては、ご質問の趣旨の通りでありまして、私も議会等でご指摘・ご質問ございまして、答弁をしています。感染防止の観点から基本的には、お話をするときには、マスクを着用していただくことについては変わらないです。しかし、特にこれからの季節は熱中症のリスクの方が高いと言われておりますので、基本的に体育の時間や、登下校時など、そういった時にはマスクを外すように指導することになっております。 ただ、先生によっては徹底されていないというご指摘が複数、私にも市民の声などで寄せられておりますので、先般、改めてこの夏を迎えるにあたって、国の基準等を踏まえて、体育の授業や、休み時間に校庭で遊ぶとき、登下校時などは、原則マスクを着用させないということで、徹底をするように教育委員会の方から通知をしてもらったところであります。改めて全教職員に周知をしておりますので、それに対応していきたいと思っております。 ただ、皆様もそうですが、食事の時に話す場合は、マスクをしていただくということを、可能な限り徹底いただくということをお願いをしておりますので、よろしくお願いします。			

番号	3	意見	中心市街地活性化の一環として、今後の市街地、商店街の活性化のあり方について。シンボルロード、歴史的な資産（小牧山等）や小牧独自の文化を活かした街づくりについて。	都市計画課、都市整備課
回答要旨	中心市街地のグランドデザインにつきましては、エリアがございまして、小牧駅から小牧山ぐらいいまでになります、これまでの議論で二つのゾーンに分類しています。一つはにぎわいなどを優先する、駅周辺ゾーンで、もう一つは寺浦・西町のあたりから小牧山ぐらいいまでのところで、緑と歴史的な景観、安らぎを優先するようなゾーンです。このように中心市街地は二つゾーンに分かれておりまして、それにふさわしい整備と、また市民の皆さんとのまちづくりを進めていくということになっています。 そして、もちろんにぎわいの方のゾーンにも、例えば屋根神様や、歴史的な様々な表札があります。色々な歴史的なものがありますのでね、そうしたことを大事にしながら、歩いて楽しめるまちづくりということを基本コンセプトに据えたグランドデザインとなっています。 街中の散策、歩いて楽しめるまちということで、道路の状況はもちろんのこと、沿道に色々なお店があって楽しめる、そういったことをやっていきたい、それに歴史的・文化的な資産も活用しながらやっていきたいと考え、色々なご意見をいただきながらグランドデザインを策定しました。 もちろんそのような中で、小牧は非常に古くからのまちで、歴史的な資産、文化資産が非常に豊富だと、もっとPRしていくと良いのではないかという意見が本当に多かったので、そんなまちづくりや情報発信をしっかりとやっていきたいと、私も思っています。			

番号	4	意見	市のイベント等でライトアップ、祭りのかざりつけ、イベント広場等、駅東にも延長できないか？	シティプロモーション課、都市計画課、都市整備課
回答要旨	駅東の状況ですけれども、確かにシンボルロードの電飾も小牧駅ぐらいいまでで終わっています。実は、中心市街地のグランドデザインで、駅の東側を活性化していく計画にはなっていません。過去に、区画整理など様々な経緯があって基本的に中心市街地は小牧駅から西側ということになっているので、現状の計画でもそうになっています。ただ、電飾は検討すれば、駅東までできるとは思いますが、このあたりの使い方は、一つのポイントかなと思います。もしかしたら駅東まで活性化していこうということはあるかもしれません。 一応、今の基本的な考え方は、もうすでにお示ししていますが、この駅東の広場の使い方はもっと色々な可能性があると思いますので、整備が終わってきた段階で、そしてグランドデザインの取組を進めていく段階で、もう一度その点も含めて、改めて検討をしたいなというふうに思っています。 今の電飾のことも含め、駅東の使い方、どう活性化していくのかをもう一度、皆さんで考えたいと思っています。			

番号	5	意見	旧図書館の跡地はどのように考えているのか。	都市計画課、みどり公園課、都市整備課
回答要旨	旧図書館ですが、グランドデザイン戦略会議の中でも、ご意見がございました。 民間の事業者などからは、緑とか安らぎとか、公園的な場所、或いはそこに少しカフェとかそういったことがあってもいいねとか、そういったご意見が多かったです。 実はグランドデザインの委員さんなどからはあそこに、何かお店とかにぎわいに資するようなものがあつたらいいのではないかと、観光に資するような施設があつた方がいいのではないかと、ご意見もありましたけれども、ただ都市計画上、いろいろ制約もあり、周辺との調和も考えると、外からの集客施設みたいなものは、あそこに建てることできないということになっていて、そういったことも踏まえて、どういったことができるかというご提案を企業に公募いたしました。 3件ぐらいい応募があり、そこを踏まえて、今議論を進めているところで、基本的には民間活力を導入していきます。具体的に決まったものはまだ何もございませんが、例えば、緑豊かな公園的な整備の中で、小牧山まで散策する途中に、少しゆっくりでき、お茶の飲めるような、少し休憩できる施設があるといいねというようなご提案をいただいておりますが、そういったご提案を踏まえて、市の方で検討している段階です。			

番号	6	意見	知的障害者の親亡き後の生活について。現在、小牧市には、生活介護を希望する方が将来、親亡き後に生活する施設がとても少ないです。他の市に比べ充実していません。以前、福祉課の方とお話しする時間をいただきましたが、4年程たち、さほど変化がないのが現実です。市の助け、援助で、少しでも安心できる、親がいなくなったあとも子が笑顔で過ごせる、そんな環境をお願いしたいです。	障がい福祉課
回答要旨	本当に難しく、また大事な問題ですが、障がい者がご家族におられる親御さんなどは、非常にご苦労され、また将来も心配だろうと思います。 現状、日本では、セーフティーネットはあります。ただ、実際に障害の程度や状況も様々ですから、これは本当にご心配だろうと思います。 誰もが社会に居場所があって、そして自分らしい人生、いきいきと暮らすことができる、そういった活躍の場がある、そういう社会を作っていかなければいけないと、これが我々の今の大きな目標です。 例えば小牧では、独自に障がい者の皆さんの作品展を毎年やっているように、国だけの制度だけではなく、市として、より多くの機会の創出だとか、助けることができないかと努力をしているところでもあります。 親が元気なうちはいいけれども、自分たちが亡くなった後の子どもが心配といった話は、私もよくお聞きをするし、その通りだというふうに思います。現状、小牧独自の制度までは至っておりませんが、必要なことは制度に当てはめ、制度がないところは、行政だけではなくて、みんなで支えながら、地域の助け合いの中で、安心して暮らし続けることができるような体制にしていかなければいけないだろうと思います。交通事故や病気で、誰もが障害にいつ陥るかわからない、いつ寝たきりになるかわからないわけですから、そういったときに安心して暮らすことができるという体制を地域全体で作っていくという必要があると思っています。 ただ、どうしてもならないということには、我々は絶対しませんので、しっかりと助けるということは、小牧として、当然やっていかなければいけないと思っておりますので、状況などをお聞きしながら、対応させていただきたいと思っています。			

番号	7	意見	預貯金詐欺やオレオレ詐欺が多発しているが、小牧市として何か対策を考えているのか。	市民安全課
回答要旨	小牧市内で特殊詐欺が増えています。電話かかってきたりする詐欺が多いよと言っていますが、まだだまされる人たちがたくさんいます。 手口もわかっていたのに、だまされてしまうことがあります。 これが非常に問題で、小牧市内で、昨年に比べて今年は16件増えています。自分は大丈夫と思っている人が多いですが、大丈夫じゃありません。 警察を名乗って、キャッシュカードなど各種カードが狙われているとか、危ないと言ってきて、そして目の前でキャッシュカードを預かって、封筒に入れます。そして、封筒に封をして、ここに印鑑くださいと言って印鑑を取りに行かせます。その間に封筒に入ったキャッシュカードを、キャッシュカードみたいなプラスチックカードにすりかえます。印鑑押してもらってこれを大事に保管してくださいと、返されると、自分はキャッシュカードを渡していないつもりだけど、すりかえられている、こういったこともあります。 詐欺電話への対策として、簡易型の自動録音機がありまして、電話機につけて受話器を取るとセンサーが反応して、録音していますというような警告音声を流してくれます。 数に限りがありますが、欲しい方は受付に申し出ただけければ、今日お配りをしますので、こういったことも含めて対応していきたいと思っておりますが、いずれにしても、被害が非常に増えていますので、本当に気をつけていただきたいと思っております。 警察も市も、絶対にキャッシュカードを預かったり、暗証番号聞いたりしません。 ぜひ、一人暮らしの方とかお知り合いとか、皆さん声をかけ合って、みんなで気をつけていただきたいと思っています。			